

2026年1月4日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒1番（旧4番）

『父なる御神を』

聖書⇒詩編 104 編 1～3 節（MM 姉）

『わたしの魂よ、主をたたえよ。
主よ、わたしの神よ、あなたは大きいなる方。

栄えと輝きをまとい
光を衣として身を被っておられる。
天を幕のように張り
天上の宮の梁を水の中にわたされた。
雲を御自分のための車とし／
風の翼に乗って行き巡り
さまざまな風を伝令とし／
燃える火を御もとに仕えさせられる。
』

（祈り）

礼拝讃美歌⇒14番（旧231番）

『天地の御神をば』

聖書⇒詩編 98 編 1～3、9 節（ES 姉）

『新しい歌を主に向かって歌え。
主は驚くべき御業を成し遂げられた。
右の御手、聖なる御腕によって／
主は救いの御業を果たされた。
主は救いを示し／

恵みの御業を諸国の民の目に現し
イスラエルの家に対する／
慈しみとまことを御心に留められた。
地の果てまですべての人は／
わたしたちの神の救いの御業を見た。

主を迎えて。主は来られる、
地を裁くために。主は世界を正しく裁き／
諸国の民を公平に裁かれる。』

聖書⇒イザヤ書 11 章 6~10 節

『狼は小羊と共に宿り／
豹は子山羊と共に伏す。
子牛は若獅子と共に育ち／
小さい子供がそれらを導く。
牛も熊も共に草をはみ／
その子らは共に伏し／
獅子も牛もひとしく干し草を食らう。
乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ／
幼子は蝮の巣に手を入れる。
わたしの聖なる山においては／
何ものも害を加えず、滅ぼすこともない。
水が海を覆っているように／
大地は主を知る知識で満たされる。
その日が来れば／
エッセイの根は／
すべての民の旗印として立てられ／
国々はそれを求めて集う。
そのとどまるところは栄光に輝く。』

聖書⇒ヨハネの黙示録 21 章 1, 3~4 節

『わたしはまた、新しい天と新しい地を見た。最初の天と最初の地は去って行き、もはや海もなくなった。

そのとき、わたしは玉座から語りかける大きな声を聞いた。「見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のものは過ぎ去ったからである。』

(祈り)

聖書⇒エフェソの信徒への手紙 1 章 22~23 節

『神はまた、すべてのものをキリストの足もとに従わせ、キリストをすべてのものの上にある頭として教会にお与えになりました。教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方の満ちておられる場です。』

(祈り)

礼拝讃美歌⇒116 番 (旧 40 番) (KH 兄)

『カルバリの丘』

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11 章 23~26 節 (KH 兄)

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。』

(式)

礼拝讃美歌⇒142 番 (旧 58 番)

『渡されたもう』

《建徳》

聖書⇒ローマの信徒への手紙 6 章 14 節 (CN 兄)

『なぜなら、罪は、もはや、あなたがたを支配することはないからです。あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にいるのです。』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 6 章 11 節

『なぜなら、罪は、もはや、あなたがたを支配することはないからです。あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にいます。』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 8 章 38~39 節

『わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。』

聖書⇒創世記 3 章 1~9 節 (KH 兄)

『主なる神が造られた野の生き物のうちで、最も賢いのは蛇であった。蛇は女に言った。「園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか。」女は蛇に答えた。「わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてもいけない、死んではいけないから、と神様はおっしゃいました。」蛇は女に言った。「決して死ぬことはない。それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。」女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆していた。女は実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はいちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした。その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた。アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間に隠れると、主なる神はアダムを呼ばれた。「どこにいるのか。』

聖書⇒創世記 2 章 16~17 節

『主なる神は人に命じて言われた。「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。』

聖書⇒創世記 3 章 12~14 節

『アダムは答えた。「あなたがわたしと共にいるようにしてくださった女が、木から取って与えたので、食べました。」主なる神は女に向かって言われた。「何ということをしたのか。」女は答えた。「蛇がだましたので、食べてしまいました。」主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。』

聖書⇒ルカによる福音書 9 章 59~60 節

『そして別の人に、「わたしに従いなさい」と言われたが、その人は、「主よ、まず、父を葬りに行かせてください」と言った。イエスは言われた。「死んでいる者たちに、自分たちの死者を葬らせなさい。あなたは行って、神の国を言い広めなさい。』

礼拝讚美歌⇒127番（旧 241 番）（KH 兄）
『十字架の許で』

《建徳要旨》